

THE NMUN KOBE TIMES



Kobe City University of Foreign Studies

神戸での模擬国連世界大会、会議最終日を迎える 祝祭のうちに閉会式も



神戸市会議場でのセッションを終え、カメラに向かい微笑む ECOSOC の代表ら

11月26日。各国代表は最終目的に向け懸命に取り組み、模擬国連世界大会(NMUN)は終了を迎えた。午前中、経済社会理事会(ECOSOC)のセッション VII が神戸市会議場で行われた。最終投票があり、3時間のセッションは午後零時半に閉会した。同じ頃、ほか三つの機関—総会(GA)、安全保障理事会(SC)、難民高等弁務官事務所(UNHCR)—のセッションは神戸国際会議場にて開かれた。代表は互いに協力し、真剣に取り組んでいた。各機関のセッション閉会の際、代表はとびきりの達成感を味わい、また少なからず安堵した様子だった。午後3時-4時半には閉会式が神戸国際会議場の大ホールで行われた。

GAの決議案は全て可決

最後のセッションは午後零時11分に終了し、「大量破壊兵器の廃絶」に関する八つの決議案全てが可決された。

3度の公式協議と2度の非公式協議の後、八つの決議案が代表らの拍手とともに議長へ送られた。例を挙げると、決議案 1/1 は核不拡散条約再検討会議(NPT RevCon)を2年ごとに開催するべきだと提案している。

決議案 1/1 と決議案 1/2、決議案 1/3 は全会一致で採択された。残りの決議案は代表が「賛成」、「反対」もしくは「棄権」と言う点呼投票、プラカードを高く上げて投票するプラカード投票によって採択された。
(2頁に続く)

(1 頁から続く)

セッション終了後、アンゴラとドイツ、ガーナ、ポルトガル、韓国、南アフリカ、イギリスの 8 カ国はポジション・ペーパー優秀賞を、アンゴラとベルギー、チェコ、レバノン、ウクライナの 5 カ国は優秀代表賞を受与した。そしてブラジルが会議の終了へのモーションに動き、それが可決されると国連総会のセッションは閉幕した。



UNHCR での最終ステージと投票

公式協議においてウガンダは「我々の社会と未来をより良いものにする」ための長期的と短期的の両方のアプローチに焦点を当てた。最終的に七つの決議案が決議となったが、決議案 1/6 は否決された。

会議の終わりに二つの賞が発表された。一つが優れた代表に贈られるポジション・ペーパー優秀賞と、会議を通してリーダーシップが認められた代表に優秀代表賞である。ベルギーと日本、メキシコ、ルワンダ、南アフリカがポジション・ペーパー賞を、アルゼンチンとベルギー、メキシコ、イギリス、アメリカが優秀代表賞を獲得



した。セッションはウガンダのモーションで閉幕した。

積極的に取り組んだ常任理事会の代表

いくつかの国は、地域の共同体と協力して女性や女兒を援助することの重要性を強調した。例えばウクライナは、厳しい宗教規律や男性優位の社会の存在を理解することが大切であると主張した。非公式協議の後、代表らは投票手続きへと移った。決議案 2/1 が全会一致で採択され、各国は拍手で喜びを共有し、握手をする代表者もいた。ポジション・ペーパー賞はアンゴラとイギリス、代表者賞はアンゴラとベネズエラに授与された。中国が、2017 年のカナダまで会議の延期を申し出たが、スペインは反対のプラカードを上げてセッションが終わってしまうことへの名残惜しさを示した。他の代表らの温かい笑顔に包まれた。



ECOSOC の四つの決議案

最終セッションは神戸市会の池田りんたろう議長の歓迎スピーチで始まった。このセッションでは日本人見学者のために同時通訳が提供された。

四つの決議案が投票された。決議案 DR1/1 は、早期復旧可能なインフラの整備や早期危険警告システムの創出と国際協力の推進に関するものである。決議案 DR1/2 は「誰も置き去りにしない」

(3 頁に続く)



(2 頁から続く)

ことを目指す。決議案 DR1/3 は災害リスク軽減において、アシスタンス通信技術訓練 (ACCT) に焦点を当てた。決議案 DR1/4 は地域レベルでの災害調査への投資、研究機関への財政支援、そして災害に関するデータ共有のためのフォーラムの設置の重要性を強調している。会議の終盤、ポジション・ペーパー賞はアルゼンチン、コンゴ、日本、ナイジェリア、パナマ、南アフリカに贈られた。優秀代表賞はアフガニスタン、ベルギー、南アフリカ、米国に授与された。副議長を務めた植田奈菜子さんは涙を浮かべ、全参加者の協力に感謝した。代表は立ち上がり、彼女に拍手を送った。



閉会式は関西地域の大学生が結成する「湊」の演技で始まった。高知県発祥の踊り、よさこいを披露し、観客を楽しませた。全米学生会議連盟 (NCCA) のマイケル・イトン事務局長は本学で 2016 年 NMUN が開催されたことは、ワクワクする経験だったと述べ、会議の成功に膨大な情熱を注いだすべての人に深い感謝を表した。

イトン事務局長は、緒方貞子の発言を引用し、「日本は国家間の争いの仲裁者としてより関与を深め、調停者としての役割を担っていくべきである」と述べた。これを実現するために、人々は国際政治を理解し、交渉術を習得できるよう鍛えられなくてはならない。こうした技能を育てていくことが未来のリーダーの創出に求められることなのである。

「世界秩序と私」という講演の中で、大阪大学の星野俊哉教授は世界の人々の仲間意識を高めていく重要性を強調した。今日、多くの人々にとって世界秩序は単にそこにあるものとして扱われている。星野教授はしかし、それは共に作り上げていくべきものだと主張した。「私たち自身が私たち自身のために作り上げるものであって、何か問題があれば私たちが変えていかなければならない」と星野教授は述べた。世界秩序を私たち自身と繋ぐために、星野教授は地球を私たちの「家」と例えた。私たちが繋がっていて、一つだということが理解できれば、地球上のすべての人にとってより良い社会をつくることができると星野教授は確信しているとした。

最後に、事務総長である谷幸穂さんは、NMUN は参加者一人ひとりに様々な利益をもたらしていると述べた。自身の取り組みを振り返り、NMUN が自分たちにとってどういうものであったのかを考えてほしいと言う。谷さんにとっては、真に国際化した社会をつくるには相互理解が必要不可欠であるという意識であった。谷さんはその後、カナダで 2017 年に開催される次回の会議までの延期を宣言した。



最優秀使節団賞

アフガニスタン	University of New Haven
アンゴラ	University of New Haven
コスタリカ	Brigham Young University
インド	Model UN of the Russian Far East
メキシコ	Riverside City College
パナマ	MacEwan University
韓国	Universite du Quebec a Montreal
南アフリカ	Universite du Quebec a Montreal
ウクライナ	University of Bridgeport
ベネズエラ	De La Salle University-Manila

「この会議に参加できて、この経験からたくさんのことを学べて、とても嬉しく思っています。そして、世界中の人々と交流できてとても楽しかったです。」(ドイツ国連協会 NRW 州支部大学連合から参加したリナ・アンドレアスさん)

自分の実力を試す場

チリのサンティアゴ大学のエドガー・アンドレス・ローダスさんはエジプトの代表を務めた。彼は今大会での経験を次のように語った。「私はビジネスを専攻していて、今大会は自身の交渉能力を試す貴重な経験になりました。」さらに、「他の国の人や違う生き立ちの人々とコミュニケーションをとりながら、英語力を試す、そして交渉能力を学ぶ非常にいい機会でもあった」と加えた。

「NMUN はお互いに協調し、活動し、協力し、会議が終わった後も国境を越えた友情関係を築くことが出来る素晴らしい機会を与えてくれました。私は今回が二回目の NMUN で、賞を頂けたことを誇りに思っています。」(ドイツ国連協会 NRW 州支部大学連合から参加したニールズ・オルデマイヤーさん)

大使たちは日本とドイツには多くのつながりがあることを学び、NMUN で日本代表を務めるのに役立つことをたくさん学ぶことが出来た。ワイラーさんは学生に会議内だけでなく、会議外でも学ぶことを期待している。

会議では、生徒たちが国際情勢における日本の立場を理解すること、会議外では、京都と広島へ文化視察に訪れ、広島では被爆者から話を聞く貴重な機会を得たと考えている。神戸では、1995年の阪神淡路大震災の現場を訪れ、今なおその災害が人々の記憶に強く残っている事実を知った。これらの人々との出会いを通して、ワイラーさんは世界では実際に災害が起こっていて、それらから人々を救うためには国際社会の一人一人が協力する必要があることに生徒たちが気付くことを期待している。



「初日は緊張から中々話すことが出来ませんでした。でも周りの人のアドバイスのおかげで緊張は解けて、初めての NMUN はとても貴重な経験になりました。」(丹下レイカさん、岡山大学)

日本の災害から教訓を学ぶ

ドイツ国連協会副理事長のトーマス・ワイラーさんは同協会ノルトライン・ヴェストファーレン (NRW) 州支部の顧問として、同支部内の大学からの学生 20 人と今大会に参加した。彼はボン大学とケルン大学で政治学と法律を教えている。

ワイラーさんはドイツが初めて日本の代表を務めた 2001 年のニューヨーク大会より、模擬国連を通じて両国の絆が強固になったと考えている。彼は昨年、そして今年の日本大学模擬国連大会 (JUEMUN) にも参加しているほか、現在 NRW 州支部のチームから 3 人の学生が交換留学生として本学で日本について勉強している。

NRW 州支部には大勢の学生が所属しており、参加者たちは今大会に向けて特別な準備を行ったという。彼らは他の参加者より 1 週間はやく日本に到着し、東京の国連大学を訪れ、元国連事務次長の明石康氏と面談した。また、早稲田大学で日独関係についてのヨアヒム・ガウク独大統領の講演を聴いた。

「NMUN は日本でこれまで行われた模擬国連とは全然違って、驚くようなペースで進むディスカッションについて行くのはとても大変でした。」(木次大樹さん 同志社大学)

日本人の人柄に触れて

GA のチリ代表を務めた、イタリア人のジェネブラ・カンディディさんは日本での心温まる経験について語った。カンディディさんにとっては今大会が始めての NMUN であった。NMUN がレベルの高い会議であると聞いていたので、今大会がとても困難なものになると予想していたが、多くの日本人と出会い、自己に挑戦する機会になると考え、参加を決めた。カンディディさん以前から日本の文化に興味があり、よい日本酒を買う機会があったことに興奮していた。また、彼女が驚いた日本人の特徴について話してくれた。「街で知らない日本人に自動販売機の使い方を尋ねようとしていました。彼は英語が上手ではありませんでしたが、必死に私を助けようとしてくれましただけでなく、私が無作為に彼に尋ねたことに感謝すらしてくれました。」こうしたおもてなしの気持ちのおかげで、日本での滞在を心から楽しんでいると言った。



会議から解放され、若者としてクラブで楽しむ

4 日間にわたる終日の会議を終えると、代表らはようやく普通の学生に戻ってリラックスすることができた。神戸での最後の夜を、友人と買い物したり、食事をしたりして楽しんだのである。代表としての最後のイベントである Delegate Dance が三宮の繁華街地下にあるクラブ「ガレージパラダイス」で開かれた。午後 9 時に始まり、午前 2 時まで続き、時が経つにつれてダンスは激しさを増した。このクラブには二つのフロアがある。一つは、DJ が世界中のヒット曲を流し、それに合わせてダンスを楽しむフロアで、もう一つは R&B の生演奏をバーカウンターやソファに座りながら楽しむことができるフロアである。ピリヤードをしている代表も見受けられた。代表らはそれぞれの国の踊り方と、音楽を楽しんでいた。



1 巻 12 号を担当した記者

高野七海 大石紗英 加茂隆大 船橋ゆずり 阿部弘果 塩谷広子
森田帆風 東前彩美 上野稜 山崎智美 白石汐音

1 巻 12 号翻訳者

西岡和馬 那須彩乃 時末光 (ICC 翻訳クラス) 大石紗英 (記者)

日本の家電製品の歴史

森田帆風

私たちの生活の中には便利な機械、特に家事に関連した機械がたくさんある。家電製品は時間も労力も節約してくれる。だが遠い昔の日本には、そのような近代的で便利な機械は存在しなかった。発明によって革命が人々の生活にもたらされたのだ。

その昔、日本人は表面が鋸歯状になった洗濯板を使って浅い桶の中で衣服を洗っていた。寒い冬の日であっても冷水と固形石鹼で服



をこすするため、手がひびやあかぎれになりやすかった。その上洗濯中は前かがみになるため、腰痛に悩まされ

る人も多かった。1930年、主婦のヒーローが誕生した。洗濯機である。しかし初期の洗濯機は高価で、ほとんどの人は購入することができなかった。1950年ごろになると、脱水機はなくても洗濯機を購入する人は多くなり、洗濯にかかる時間が大幅に短縮された。

冷蔵庫が誕生する以前、日本人は木箱に氷を入れ食品を保冷していた。この箱の中で氷が早く溶けることは無く、ゆっくりと長い時間をかけて溶けた

。1930年に冷蔵庫が登場したが食品の保冷方法が変わることは無く、この木箱が依然として使われた。



1970年ごろに冷凍食品が人気になると、冷凍食品を凍らせたまま保存するために冷蔵庫が売れるようになった。

1950年前後にはテレビが人気になった。各家庭が一台ずつ持つには高すぎたため、テレビを持っている家に近所の人が集まって番組を見ることがよくあった。

このころ、よくアメリカのドラマや手塚治虫のアニメが白黒で放送されていた。日本人をもっとも沸かせた番組は1959年の皇太子のご成婚パレードと1964年の東京オリンピックである。50万人以上がご成婚パレードを実際に見ようと現地を訪れたが、約200万人が白黒の放送で見た。1960年になるとカラーテレビが発売され、たくさんの人がオリンピックの競技をカラー放送で楽しんだ。これ以降、カラーテレビが急速に白黒テレビのシェアを越えた。

これら三つの家電製品（洗濯機、冷蔵庫、白黒テレビ）は「三種の神器」と呼ばれた。もともと三種の神器は鏡、玉、剣を指す。日本神話では、三種の神器が重要であるため、瓊瓊杵尊が地球に降臨する際に天照大神が与えたとされる。洗濯機、冷蔵庫、白黒テレビの三つの家電製品は、日本人の日常生活において三種の神器のように重要だったため、このように呼ばれたのである。

参考サイト:

<http://showa.mainichi.jp/news/1960/07/post-7858.html>

<http://showa.mainichi.jp/news/1953/08/post-7823.html>

